

ごあいさつ

皆さまには、平素より亀有信用金庫に格別のご愛顧とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。当金庫第107期の事業概況および決算のご報告にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

おかげさまで令和7年12月13日に当金庫は創立105周年を迎えることができました。永年にわたる、会員の皆さま、お取引先をはじめ地域の皆さまからのご支援に感謝申し上げます。

令和7年度の我が国経済は、物価上昇と賃上げの動きが並存する中、内需の持ち直しが期待される一方、海外経済の減速や資源価格の激しい変動など不確実性も残る状況にあります。金融政策の正常化に向け日本銀行は12月に政策金利を0.75%まで引き上げ、国内長期金利は3月に27年振りの水準まで上昇しました。

政府の「『強い経済』を実現する総合経済対策」では、「生活の安全保障・物価高への対応」「危機管理投資・成長投資による強い経済の実現」「防衛力と外交力の強化」を3本の柱とし、将来世代への責任を果たす「責任ある積極財政」により大胆かつ戦略的な「危機管理投資」と「成長投資」を進め、あらゆる世代の国民に恩恵が行き渡る経済の実現を目指すとしております。

こうした環境下において、地域の事業者の皆さまに対し、資金繰りの安定に向けた支援を基本としつつ経営課題の把握に努め、ビジネスマッチングなど本業支援の実施により生産性向上や事業承継、販路拡大のサポートなど、様々な取り組みを行ってまいりました。引き続き、地域の事業者の皆さまに寄り添い、安定した経営の維持に貢献してまいります。

令和7年度は、中期経営計画「GROWTH(成長)～職員一人ひとりのレベルアップと組織の高度化」(3か年)の中間年度となりました。当金庫が顧客(会員)や地域のより多くの人々から求められる存在となり、持続可能な経営を確立するために、「組織の革新」「人的基盤の確立」「DXによる業務改革の推進」「店舗運営戦略の策定、収益基盤の強化」を重点課題とし事業を進め、一人ひとりの成長を通して、活性化する組織づくりと会員・地域・当金庫とともに持続的な成長の実現をめざし、地域の成長に貢献してまいりました。

また、創立105周年を記念したジャンボ海外旅行や亀親会合同ゴルフ大会の開催のほか、昨年度発足いたしました夢叶会を始めとした組織活動など、会員の皆さまの相互交流を促進してまいりました。

平成21年から継続しております「新現役交流会」(第18回)は、5日間にわたり対面やリモートで開催いたしました。大企業等を退職し、専門知識やスキル、資格や人

脈等を中小企業の経営課題解決に役立てたいという意欲を持った人材である「新現役」と中小企業との人材マッチングを支援するこの取り組みは、今回も広域連携により東北、北陸、中国、九州の金庫が参加し、当金庫と合わせて9金庫での開催となりました。

また、信用金庫ならではの広域連携により、お互いのお取引先商品をご来店されたお客さまに取り次ぐ「ご当地おみやげ取次プロジェクト」は6年目となりました。店頭で旅の気分を味わっていただけるこの取り組みは今年度までに24回開催し、連携先は8金庫に拡大、双方のお取引先やご来店されたお客さまにご好評をいただいております。そのほか、葛飾区特定創業支援等事業として「かつしか創業塾」(全6回)を毎年開催しているほか、企業間のビジネスマッチング機会を提供する「ビジネス交流会」(第14回)や地元製品の展示即売会である「葛飾ものづくりフェア」(第5回)を開催するなど、中小企業の課題解決に多くの成果を上げております。

令和4年度から継続しております地元中学校に対する金融リテラシー授業は、葛飾区内の2校で実施いたしました。今後も若い世代の金融リテラシーの向上に取り組むことによって、地域への貢献を続けてまいります。

主な業績は以下のとおりです。当金庫第107期の経常利益は1,633百万円となり、税引き前当期純利益は1,629百万円、当期純利益は1,257百万円となりました。自己資本比率(バーゼルⅢ国内基準)は16.59%となり、国内基準である4%を大きく上回る十分な水準を維持しております。また、今期の出資配当については3.0%とさせていただきました。

令和8年度は、中期経営計画の最終年度であると同時に、32年振りの新店舗となる新小岩支店の開設を迎える節目の年となります。より身近な存在として、地域の発展に貢献できますよう、役職員一体となり総力を挙げて取り組んでいく所存です。

皆さまには、何卒、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご繁栄をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。

2026年7月

理事長 矢澤孝太郎



7月のオープンを目前に、
新たな地域の拠点となる
「新小岩支店」にて撮影